

新生銀行 第 13 期定時株主総会 質疑応答要旨

2013 年 6 月 19 日

質問者 1

問① フラワーズ氏についての、株式の保有経緯ならびに簿価について。

答 フラワーズ氏個人と投資家グループで、現在は当行普通株式の約 21%を保有。新生銀行発足以降何度かにわたり取得し、また売却もしており、例えば 2011 年 3 月末には 27%の保有があった。取得時の簿価は存じ上げない。

問② 新生銀行の再統合の可能性は。

答 今の時点で考えているもの、進行しているものはない。今後、当行が良くなる可能性が高い話などがあれば、積極的に考えたい。

質問者 2

問① 昨年度の法人営業の貸出残高の伸びはわずか 70 億だが、きちんと取り組んだのか、働き振りを知りたい。

答 昨年度は経済環境も厳しく多くの金融機関においてこの分野の貸出が増えていない中では、健闘したと理解。また質の面でも良好と認識。

問② 常勤監査役は内部の方なので、必要な指摘も十分に行えていない可能性はないのか。

答 監査役会は常勤監査役に加え、2名の社外監査役で構成されており、監査報告に手心を加えられるような仕組にはなっていない。

問③ 海外ATMで不正に出金されたが、こういう不祥事の報告がないのは監査役報告の信頼性に疑問を感じる。

答 スキミングはいわゆる不祥事ではなく当行も被害者。当行口座は海外ATMでも引き出せる点が窃盗団に狙われた。現在はスキミング装置が付かないようにするなど対応策を取り、また、希望しない方は海外出金できないようにすることを検討。今後十分注意を払っていく。

質問者 3 (フラワーズ氏に対して)

問① 10 数年新生銀行の大株主となっているが、当初のビジョンと現在のビジョンはどう変わったのか。

答 フラワーズ氏も含めた銀行総体としての見解を取締役会の議長でもある私が代わって回答する。新生銀行発足時から先進的な個人向け業務に注力してきたが、これは現在も積極的に取り組んでおり、変わっていない。私の就任後、法人業務については本当に資金を必要としている企業や産業に対して資金を提供しようとしており、いわゆるエマージングセクターへの貸出にも力を入れている。これは発足時には無かったビジョンだと思う。

問② コンシューマーファイナンス業務に積極的に取り組んでいるが、どういうビジョンでこの業務に参画したのか。

答 改正貸金業法などの影響もあったが、この業務自体は個人顧客の強いニーズがあり、利便性を提供できることから、銀行の個人向け金融サービスとして重要と認識している。

問③ ファンドの投資家としての利益追求と、取締役として中長期的な利益を求めることに利害の対立はないのか。

答 フラワーズ氏は当行の大株主として既に 10 年以上になり、短期間で売り抜けると言う姿勢ではなく、中長

期の視点で当行に関わっていきたいという意向と理解。取締役として経営に対する有益なアドバイスも多く頂き、当行経営に多大な貢献をいただいている。

質問者4

問① 業績は回復したが、配当には何の変化もない。もうちょっと考えて欲しい。

答 当行は過去の課題をようやく解決してきたところで、健全な経営に向けて十分な資本を持つ必要がある。また第二次中計にて良質な資産を伸ばす計画であり、資本の蓄積が今以上に必要と認識。今後3年間で大きな増配は無いが、配当が1円で良いとは思っていない。

問② 公的資金返済についての考え方は。

答 全株普通株式に転換しており、市場での売却で回収していただく必要があり、公的資金の元本を毀損しないためには、今の株価では足りない。業績拡大、収益向上で株価を上げる努力が必要であり、できるだけ早く回収可能となるよう努力を続ける所存。

問③ お土産は図書カードだったが、プリペイドカードにしてもらいたい。

答 貴重なご意見として検討する。

質問者5

問① 3年間増配の予定なし、ということだが、これで株価は上がるのか。

答 10円、20円という大きな増配はしないが、収益が好調に推移すれば例えば2円とか3円というレベルへの増配は検討していきたい。

問② 富裕層ビジネスはどう考えているのか。

答 リテールバンキング発足当初より力を入れており、今後も顧客の資産運用のサービスを提供していきたい。

質問者6

問① 株式の売買単位の変更(1000株→100株)は考えているのか。

答 売買単位の変更は個人投資家が投資しやすい環境を用意しようとするものだが、現在の株価水準では効果はあまりないので考えていない。株価が1,000円を超えるような水準になったら考えたい。

質問者7

問① 当麻社長が就任してから、配当も無配から1円になったが、株価が上がって欲しい。

答 業績を着実に積み上げ、株価の上昇につなげていけるよう、役職員一同、真摯に業務に取り組む所存。

問② 普通株になったときの公的資金はいくらあったのか。

答 いわゆる元本で2,000億円強である。

質問者8

問① サプライムローンの証券化商品がリーマン・ショックの原因となったが、今でもそういう残高は残っているのか。

答 サプライムローンの証券化商品の残高はない。リーマン・ショックの影響で、株など様々な価格が下落し当行も打撃を受けたが、これまでかなり工夫しながら処理をし、大体目処がついた。

質問者9

問① 配当性向を上げるような期待のもてる戦略はあるのか。

答 配当および配当性向について現在の水準で良いとは思っていないが、健全性を保ち、将来の成長を目指すために資本の蓄積は必要。今は増配で資本を外部流出させるより、再投資で収益を積み上げ、結果として株価の上昇につなげたい。

質問者10

問① 10年もの国債の金利は現在 0.6%から 0.8%程度だが、これが 1%まで上がったら、どれぐらいの損失が出るのか。

答 国債に限らず短期から長期まで全ての金利が今より 1%上昇したらどうなるかという金利感応度テストでは、単体で約 150 億円の損失。しかし国債の保有残高は現在約 1.3 兆円というほぼ最低限の水準。もし金利が急上昇するような非常事態が起きたとしても、損失は吸収可能なレベルと理解。

以上